

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●小沢大仁騎手と永野猛蔵騎手がJRA初騎乗・初勝利をあげる

3月6日(土)の1回阪神7日・第1レースではメイショウホテルビが1着となり、同馬に騎乗した小沢大仁騎手(栗東・松永昌博厩舎)は、JRA初騎乗で初勝利をあげました。同日の2回中山3日・第3レースではタマモヒップホップが1着となり、同馬に騎乗した永野猛蔵騎手(美浦・伊藤圭三厩舎)もJRA初騎乗で初勝利をあげました。JRA初騎乗・初勝利は、小沢騎手が史上47人目、永野騎手が48人目の記録(JRA移籍後初勝利を含む)となります。

●四位洋文調教師と辻野泰之調教師がJRA初勝利をあげる

3月7日(日)の2回小倉8日・第8レースではサマービートが1着となり、同馬を管理する四位洋文調教師(栗東)は、JRA初勝利(延べ2頭目)をあげました。また同日の2回中山4日・第12レースではロイヤルパローズが1着となり、同馬を管理する辻野泰之調教師(栗東)もJRA初勝利(延べ2頭目)をあげました。両調教師とも今年3月1日(月)付で新規開業、前日の6日(土)が管理馬の初出走でした。

●団野大成騎手がJRA通算100勝を達成

3月7日(日)の1回阪神8日・第6レースではユアヒストリーが1着となり、同馬に騎乗した団野大成騎手(栗東・齊藤崇史厩舎)は、現役93人目となるJRA通算100勝(1426戦目)を達成しました。

●藤岡健一調教師がJRA通算500勝を達成

3月7日(日)の2回小倉8日・第5レースではワイドエンペラーが1着となり、同馬を管理する藤岡健一調教師(栗東)は、現役26人目となるJRA通算500勝(延べ4684頭目)を達成しました。

●1・2回小倉競馬リーディングジョッキーは吉田隼人騎手

3月7日(日)をもって1回小倉競馬・2回小倉競馬が終了し、両開催計19勝をあげた吉田隼人騎手(美浦・フリー)がリーディングジョッキーとなりました。

●エイシンサニー、シーザリオが死亡

2月17日(水)、北海道浦河町の栄進牧場に繋養されていたエイシンサニー(牝34歳)が死亡しました。1990年優駿牝馬(オークス・G I)を制するなどJRA通算20戦4勝の成績を残し、繁殖牝馬からも引退後は公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル引退名馬繋養展示事業の助成対象馬として余生を送っていました。また、2005年に優駿牝馬(オークス・G I)とアメリカンオークス(米G 1)を制するなどJRA通算5戦4勝・海外1戦1勝の成績を残し、エピファネイア、リオンディーズ、サートウルナーリアの母としても知られるシーザリオ(牝19歳)は、2月27日(土)、子宮周囲の動脈断裂による出血性ショックのため、繋養先である北海道安平町のノーザンファームで死亡しました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●名古屋大賞典(名古屋)で人気のクリンチャーが重賞2連勝

名古屋大賞典(Jpn III、3月11日、名古屋、1900m)は、5番手から差を詰めたクリンチャー(川田将雅騎手、牡7歳、父ディーブスカイ)が直線入口で抜け出して3馬身差で完勝、単勝1.3倍の圧倒的支持に応えました。逃げたバンクオブクラウスが2着に粘り、2番人気のロードプレスは3着、ウインユニファイドは5着、3番人気のメイショウカズサは8着に敗れています。

●3月17日のダイオライト記念(船橋)はマスターフェンサーが有力

ダイオライト記念(Jpn II、3月17日、船橋、2400m)は、重賞3連勝中のマスターフェンサーが中心、以下昨年覇者アナザートゥールス、ダノンファラオ、マンガン(川崎)、エルデュクラージュの順に有力視されます。

●サクセスエナジー、グリムらが出走、3月16日の黒船賞(高知)

黒船賞(Jpn III、3月16日、高知、1400m)は、このレースで一昨年優勝、昨年3着の重賞5勝馬サクセスエナジーが最有力、約1年5ヶ月の長期休養明けが鍵もグリムが続き、テイエムサウスダン、スリーグラウンド、ノボバカラまでが争覇圏内と考えられます。※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ドバイの「スーパーサタデー」が開催

3月27日の「ドバイワールドCデー」に向けたステップレースをまとめて行う「スーパーサタデー」が3月6日にドバイのメイダン競馬場で開催されました。2つのG 1を含む7レースが組まれたこの日のメインとなるG 1アル・マクトゥームチャレンジラウンド3(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、ダート2000m)を制したのはバーレーンのF.ナス調教師が管理するサルートザソルジャー(騾6歳、父セボイ)。1馬身 $\frac{3}{4}$ 差で逃げ切って、2月のG 2アル・マクトゥームチャレンジラウンド2(ダート1900m)に続く重賞連勝となりました。また、この1レース前に行われたG 1ジェベルハッタ(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、芝1800m)は、イギリスのD.オメーラ厩舎の古豪ロードグリッターズ(騾8歳、父ウィッパー)が最後方追走から鮮やかに差し切って優勝。2019年6月のG 1クイーンアンS(芝1600m)以来となるG 1制覇を果たしました。